

まちづくり・インターネット広報による地域連携実践と 学生の学び

（地域課題解決奨励金事業・地域連携活動費事業 報告）

天野 了一・川本 藍

キーワード：地域連携、アクティブ・ラーニング、PBL、まちづくり、ブログ

1. はじめに（天野）

四天王寺大学においては、「聖徳太子の仏教精神」を建学の精神とし、社会とつながる「心の教育」を柱としている。その実現のため、講義において学んだことを実践することを目的に、2013年から「COCOROE プロジェクト」と称して、同時進行的に学部や授業の枠を超えて、教職員のバックアップの下で学生が自ら企画することを目指し、様々な試みを展開している。この「地域連携 COCOROE プロジェクト」は大学横断4大プロジェクトのひとつである。

本学と地域との関わりのきっかけとなったのは、大学の最寄り駅である藤井寺駅、道明寺駅周辺の商店街のマップの作成に 2008 年から経営学科で「地域連携サークル Glanz」として取り組み、市役所や商工会と関係づくりを進めてきたことである。そして、本学（西岡祖秀学長：当時）と地域との「包括的連携協定」が 2013 年に羽曳野市（北川嗣男市長：当時）と、翌 2014 年に藤井寺市（國下和男市長：当時）とそれぞれ締結された。以後、両市を中心とした地域と大学の連携により、経営、まちづくり、商工、教育、福祉、インターンシップなど、様々な分野での具体的取り組みが行われ、各学科での連携が進展してきている。

「地域連携 COCOROE プロジェクト」は、学部、学科、授業を横断して進められているものである。授業を入り口、きっかけとして多くの学生が取り組めるよう、2015 年以降からの学修カリキュラムの改正により、座学を中心とした「地域活性化概論」（2 単位）、実習を中心とした、「地域連携インターンシップⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」（各 2 単位）を、全学部生が履修できる「共通教育科目」として開講している。

また、2017 年度から、地域の課題解決および活性化を図るため、教員が地域と連携した教育・研究活動や社会貢献に関する事業に取り組むにあたり、これを大学として組織的に奨励することにより、大学が有する知の拠点機能を充実させ、地域に貢献する 実践的な人材育成や外部との相互交流を促進することを目的とする「地域課題解決奨励金」制度が制定された。1 件につき上限 10 万円、1 年間の活動費用（学生の交通費、活動費、謝金など）を補助するものである。

授業カリキュラムの面では、2019 年度から、将来、観光、教育、産業など様々な分野で、地域と連携した活動に携わる未来のリーダーの育成を狙いとして、「地域共創プログラム」がスタ

ートした。地域活性化概論 2 単位を必修、演習を伴うインターンシップ科目のいずれか 2 単位を選択必修とし、また、各学部・学科が定めた関連選択科目として 20 単位、合計 24 単位を取得することにより、地域問題について一定の学修を行った証となり、履歴書にも書ける、本学独自のプログラム修了認定証明書を発行している。

地域連携プロジェクト発足以降の、各担当者の地域連携関係授業におけるこれらの一連の取り組みについては、本学「教育研究実践論集 第 5 号『本学における地域連携 COCOROE プロジェクトのこれまでの取り組みと今後の展望』」¹において、2017 年度までの各学科、具体的活動、趣旨、成果、課題を担当者の分担で詳細に紹介している。

更に、筆者が担当実施し、前述の「地域課題解決奨励金」を活用した「地域ブランド研究」、「地域連携インターンシップⅢ、Ⅳ」の専門授業における、ブログ形式のホームページの作成演習を行なった。学生が地域を取材し、写真を撮影、記事を執筆、公開した成果と、運営上の課題について、続く「教育研究実践論集第 7 号『本学における地域連携 COCOROE プロジェクトのこれまでの取り組みと今後の展望』」²にて、2017 年度前期、2017 年度後期と 2018 年度前期の計 1 年半において紹介した。

また、筆者の担当する地域関連科目の授業の履修者や、ゼミ生から、まちづくりや地域おこし、ボランティア活動に関心のある学生を募り、羽曳野市・藤井寺を中心とした近隣地域で開催される様々なまちづくりイベントや行事に通年で参加している。運営、企画や現場でのボランティアを通じて、まちづくりや地域貢献について体験的に学び、将来のまちづくり活動に関心を持ち取り組むリーダーを育成することを狙いとしているものであり、2017 年度、2018 年度の 2 年間について、「地域課題解決奨励金」はじめ、授業予算、様々な学内制度、個人研究費等を活用して様々な地域連携活動を実施した成果や、反省事項、学生の学びや成長について、「教育研究実践論集第 8 号『地域連携プロジェクトによる、まちづくり活動参加実践と教育における成果（地域課題解決奨励金事業報告）』」³において記録としてまとめた。

本稿はいわばそれらの続編であり、2019 年度における、新規で経営学科で申請した「地域課題解決奨励金」や「地域連携活動費」などを活用しての、地域での様々な活動内容の記録と、継続実施している学生のプロメディアを通じた地域 PR の具体内容、これらの実施要領、教育上の成果、見えてきた課題などを報告する。なお、「インターナショナルウォーク藤井寺」については、日本学科・国際キャリア学科で別途申請（申請者 日本学科・麻生迪子）した「地域課題解決奨励金」を活用しており、本論集の「教育研究実践論集第 9 号『日本人学生と留学生双方の学びと地域観光開発に資する取組み（151 頁）』」を参照されたい。

¹『本学における地域連携 COCOROE プロジェクトのこれまでの取り組みと今後の展望』木村三千世・天野了一・伊藤 重男、隅田孝・津崎克彦・吉田祐一郎 四天王寺大学教育研究実践論集第 5 号 2018.3

²『地域連携プロジェクトによる実践的教育活動とブログ作成について（地域課題解決奨励金事業 報告）』天野了一 四天王寺大学教育研究実践論集第 7 号 2019.3

³『地域連携プロジェクトによる、まちづくり活動参加実践と教育における成果（地域課題解決奨励金事業 報告）』天野了一 四天王寺大学教育研究実践論集第 8 号 2019.9

2019 年度については、「地域ブランド研究」の講義について、「公益財団法人 吉野川紀ノ川源流物語」はじめ、奈良県での地域コーディネーター・ライターとしての経験と実績を有する西久保智美氏を新たに非常勤講師として委嘱し、内容の充実と異なった切り口での展開を図った。

また、本学の卒業生であり、また在学時には本学の地域連携科目を中心にスチューデント・アシスタント（SA）として活動し、それを契機として 2018 年から現在まで、広告・広報会社「ジェイ・ライン株式会社」にて地域情報やインターネットメディアでのサイト作成、ライターとして活躍している、若手クリエイターの川本藍氏を、「地域連携インターンシップ」「地域ブランド研究」の特別講師として招聘し、記事投稿の技術や手法について学ぶとともに、同社の運営・企画する地域情報ポータルサイト「オオサカジン」と連携しながら、情報提供を広く行い、実践的教育を実施したことが特徴である。以下、2019 年度の活動を述べる。

2. 2019 年度地域連携活動（天野）

（1）学生の地域ボランティアについて 参加の準備と費用

本学学生が、地域活性化や、まちづくりについて、体験的に学ぶためには、様々な種類のイベントに、ボランティア、スタッフとして参加し、あるいは自ら企画に取り組む必要がある。多くの人の熱い思い、心意気に触れ、行動をみながら、自分も役割を担い、叱責や激励を受けることが重要である。そのため、市役所、商工会、議員やまちづくりリーダー、まちづくり協議会や、NPO、商店主、寺社などと、良好な関係を構築するとともに、学生が参加できる機会についての情報探索を随時行っている。また、組織の公式ホームページに加え、主催者が発する Facebook や twitter、Instagram などが、イベント等や募集に関する重要な情報源になっている。

このようなイベントを発掘し、主催者とも連絡をとりながら、ゼミ生や、地域活性化関連授業の履修者を中心に参加を募っており、また一度参加した学生については、「IBU 地域連携ボランティアチーム」として、LINE グループに追加、登録している。グループには卒業生も含め、約 60 名のメンバーがおり、市長はじめ、市役所の役職員、まちづくり協議会や、NPO「まなリンク協議会」のメンバーも登録され、情報交換や、イベント後の写真共有を行っており、参加のモチベーションにもなっている。ゆるいグループではあるが、自覚や帰属意識を醸成する中で毎回活発に活動する常連メンバーもあり、やがてリーダーへと成長していく。

2019 年度、即ち 2019 年 4 月から、2020 年 3 月までの、筆者が計画、実施し、学生が参加した地域ボランティア活動、およびその実施予算の出所を【図表 1】に示す。なお、2020 年 3 月以降に実施されることになっていたイベントについては、新型コロナウイルスの蔓延により、残念ながら直前で全て延期、中止を余儀なくされた。

このような活動を実施するためには、学生や教員の交通費に加え、参加団体への分担金、様々な機材や材料の物品購入にについて、相当額の費用が発生する。このうち、学生の交通費や参加費について、授業に紐付いたものについては、履修者に対して「学外教育活動奨励金」（教務課管轄）が使える。前年度の予算申請は不要であり、4 週間前の申請により、5000 円を限度と

する学生の大学を起点とする交通費の半額（500 円未満切り捨て、よって藤井寺、羽曳野等、近距離の場合は使えない）と、利用料（入場料など）の全額を大学が負担することができる。また、謝金としては使用不可能である。一つの授業科目で総額 5 万円であり、利用は 1 回が限度となっている。履修者または参加者が 50 名を超える場合は利用できない。

また、授業の枠組みに入らない地域連携活動については「地域連携活動費」（エクステンションセンター管轄）を、学生の交通費に充当することができる。1 回の活動につき 2 万円が限度であるが、4 週間前の申請と審査により、一人 2000 円を上限として学生の交通費全額を大学が負担する。こちらも入場料や利用料、謝金としては使用不可能である。全体の予算枠 50 万円を超えない限り、何度でも利用することができる。近距離でも大学を起点とした往復交通費が全額支給されるため、20 名程度までの学生の地域活動における交通費等に適している。

【図表 1】学生と取り組んだ地域ボランティア・連携活動（2019 年度）

日程	内容	主催	予算別
2019. 5. 4	道明寺歴史まつり	道明寺街協	B
2019. 6. 16	インターナショナルウォーク藤井寺（ユタ大学）	まなリンク協議会	CD
2019. 7. 17	イオン藤井寺 デジタルサイネージ、HP 作成	イオンモール	F
2019. 7. 27	宮子屋 土師氏の話とはにわづくり	まなリンク協議会	D
2019. 7. 25	道明寺天満宮 天神祭 天神通り商店街夜店	道明寺天満宮	BD
2019. 7. 28	古墳列車出発式・百貨店イベント	近鉄・近鉄百貨店	D
2019. 9. 19-20	ゆるキャラグランプリ彦根（藤井寺ブース）	実行委 NPO	D
2019. 9. 16	世界遺産登録決定記念 まほら藤井寺	藤井寺市役所	C
2019. 10. 9～毎月第 3 水曜	柏原 大正通り商店街 ポケット商店街 ゲストハウス「えんがわ」	Bed&Bicycle	G
2019. 10. 20	インターナショナルウォーク藤井寺（浙江工商大学）	まなリンク協議会	CD
2019. 10. 20	宮子屋 鷺（うそ）のお話と香りづくり	まなリンク協議会	D
2019. 10. 26	デラハロ（藤井寺ハロウィン）	藤井寺駅周辺街協	CE
2019. 11. 1	はびきのまちマルシェ／しゅみうる第 1 回	実行委 NPO	CE
2019. 12. 8	インターナショナルウォーク藤井寺（浙江工商大学）	まなリンク協議会	CD
2019. 12. 8	宮子屋 初詣と正式参拝方法、しめ縄づくり	まなリンク協議会	D
2020. 2. 3	インターナショナルウォーク藤井寺（浙江工商大学）	まなリンク協議会	CD
2020. 2. 3	辛國神社 燈火会（ほしまつり）	辛國神社	B
2020. 2. 15	宮子屋 管公・梅のお話と梅酒・シロップづくり	まなリンク協議会	D
2020. 2. 16	藤井寺市長とのタウン・ミーティング	藤井寺市	F
2020. 3. 1	しゅみうる第 2 回（本学学生起業シニア市場）（延期）	天野ゼミ、イオン	FG
2019. 3. 24	FRAP ハレマチビヨリ（延期）	藤井寺市 実行委	BE
学生活動予算の出所：A 学外活動奨励金（該当なし） B 地域連携活動費 C 地域課題解決奨励金 D 主催団体予算 E 教員個人研究費 F 負担なし G 教員または学生の個人負担			

また、物品購入や、模擬店関連資材、道具類の購入、外部講師への謝金や、インターネットサービスへの加入料や契約を伴う料金、現場調査での費用（取材のための試食等含む）については、大学からの「地域課題解決奨励金」（エクステンションセンター管轄）をそれぞれのイベントの事情に合わせ活用している。

これは、当該年度初めの、計画書の事前申請と審査により 5 プロジェクトが認定されるもので、用途については、調査費や食品なども可能で、比較的自由度が高く、年間 10 万円を限度として、請求書・領収書により事後に支払いされ、また学生交通費としての利用も、近距離でも全額支給が可能となっている。

ただし、「学外教育活動奨励金」「地域連携活動費」「地域課題解決奨励金」については、同じ行事での重複で給付を受け利用することができない。この他、物品の購入や、分担金等については、教員の個人研究費を充当することもできる。ただし、個人研究費については、学生の交通費や、謝金としては使用することができない。それぞれ一長一短があり、イベントの性格や場所、参加人数などにより、適切なものを使い分ける必要がある。また、主催団体から一律の交通費、あるいは食費に充当する手当が日当として拠出される場合もあり、学生の個人負担を抑えながら、活動を実施することができている。

（２）イベントや取り組みの具体的内容

参加したこれらの地域イベントについては、道明寺歴史まつり、天神まつり、ゆるキャラグランプリ、デラハロなど、大規模イベントとして毎年恒例で開催されるもの、世界遺産登録決定関連など、単発で開催される大規模なもの、宮子屋のような少人数に限定されたもの、まちなみ、イオンなど、商業、営利を目的としたものがあり、その趣旨や目的、規模や参加者、実施主体も様々である。2019 年度において、学生が参画した、主要な企画についてイベント・主体別に紹介していく。なお、恒例行事についての主催団体の概要や趣旨の詳細、2018 年度以前の活動やその教育活動としての評価、および記録写真については、「教育研究実践論集第 8 号」を参照されたい。

① 道明寺歴史まつり（主催：道明寺まちづくり協議会）



豊臣氏と徳川氏の最後の戦いとなった慶長 20 年（1615 年）の大坂夏の陣・道明寺の道明寺合戦を偲ぶとともに、歴史を生かした新たな地域イベントとして、チャンバラ大会をメインとした「道明寺合戦まつり」が 2014 年にスタート、2017 年からは各時代の歴史仮装行列を加えた「道明寺歴史まつり」と改称し、毎年少しずつ工夫を加えながら、地域の子どもたちや家族が楽しみながら参加できるような形で定着してきた。

事業主体は、藤井寺市・道明寺駅周辺の商店主と地域住民により組織される「道明寺まちづくり協議会」で、藤井寺市役所の後援を受け、チョーヤ梅酒や大阪前田製菓など、地域企業のスポンサーシップの下で実施している人気イベントで、例年 2000 人程度の集客がある。2019 年度は 5 月 4 日に開催、通算 6 回目、歴史まつりとしては 3 回目の実施となり、約 20 名の学生が、歴史装束に身をつつみ、道明寺天満宮から石川河川敷までの歴史行列の誘導、チャンバラ大会の準備や安全確保、設営や撤収作業に楽しみながら取り組んだ。

【写真1】本学学生と教員も歴史装束で参加	【写真2】平安衣装と戦国甲冑の学生
	
【写真3】歴史パレード	【写真4】チャンバラ大会の運営
	

② インターナショナルウォーク藤井寺・宮子屋・まなりくん（主催：まなリンク協議会）

2014年に発足した「まなリンク協議会」は、藤井寺市の公認ゆるキャラである「まなりくん」の活動や、そのファンづくり、藤井寺を楽しんでもらう参加型ファミリーイベントである「宮子屋」などを行うこと、藤井寺の魅力を Instagram、twitter、Facebook などを通じて広く内外に発信していくこと、等を主たる事業の内容としている、藤井寺市役所から年間 100 万円の予算措置と監査を受ける公認まちづくり団体である。地元藤井寺・柏原で古民家再生やレストラン運営、不動産ディベロッパーを手がける西村剛氏を会長とし、筆者（天野）が 2016 年に副会長に就任、土師ノ里の長屋再生多目的スペース「里庭の箱」を拠点に、映像クリエイター、コンサルタント、商店主、主婦、サラリーマン、そして本学学生など、藤井寺や「まなりくん」を愛する約 20 名のメンバーを中心に、藤井寺氏在住者以外も多く参画していることが特徴となっている。以下、2019 年度に同協議会が主催し、本学学生・教員が参画した行事について述べる。

【写真5】活動拠点 「里庭の箱」	【写真6】学生参加の運営会議の様子
	

<国際ナショナル藤井寺ウォーキング (IFW) >

2018 年度よりスタートした、世界遺産都市となった藤井寺の魅力や歴史を海外の人に伝えていくことを目的としたプロジェクトである。留学生や、地域在住外国人を対象に、古墳や寺社など、歴史スポットを回るとともに、日本文化に触れるなどで、楽しみながら学び、海外の人に藤井寺についてよいイメージを持ってもらうことを目指している。羽曳野・藤井寺エリアには大学が本学以外にないため、参加者の大半は本学の留学生となることから、本学の国際交流窓口である i-Talk (アイトーク) との日程調整の下で、できるだけ多くの本学への留学生が参加できるように実施している。本年度は夏学期に 1 回、短期で滞在している、連携校であるアメリカ合衆国ユタ大学の学生、冬学期に 3 回、半年のスケジュールで交換留学生として滞在中の、中国の浙江工科大学の学生を中心に、日本人学生や他大学の学生や藤井寺在住外国人をゲストとし、交流と親睦を深めながら、藤井寺の各エリアの歴史スポットや寺社を巡るとともに、古代料理教室を通じ、日本食や日本文化を体験し楽しみながら学ぶことを目指した。

なお、当日の運営については、協議会スタッフ、本学引率教員、ガイドとして藤井寺市観光協会所属の、専門知識と教員 OB などの経験を持ち、研修を受けたシニア観光ボランティア (通称観ボラさん)、歴史やボランティア活動に関心を持つ本学経営学科・日本学科の日本人学生も運営ボランティアとして毎回参加した。

日程と行き先については以下の通りである。

○2019.6.16 ユタ大学

土師ノ里～鍋塚～仲津姫～澤田八幡宮～古室山～赤面山～大鳥塚～応神天皇陵～道明寺～道明寺天満宮

○2019.10.20 第 1 回 浙江工商大学

シュラホール～仲哀天皇陵～土師ノ里～鍋塚～仲津姫～古室山～応神天皇

○2019.12.08 第 2 回 浙江工商大学

古代料理教室 パープルホール～津堂城山古墳・まほら城山・津堂八幡宮

○2020.12.08 第 3 回 浙江工商大学

道明寺～道明寺天満宮～葛井寺～辛国神社 (燈火会参加)

こちらの詳細と成果の分析、参加学生からの声については、教育研究実践論集第 9 号 151 頁『日本人学生と留学生双方の学びと地域観光開発に資する取組み』を参照されたい。

<p>【写真 7】古墳を散策する浙江工商大学生</p> 	<p>【写真 8】古墳で説明を受けるユタ大生</p> 
<p>【写真 9】古代料理づくり体験</p> 	<p>【写真 10】津堂城山古墳で古代料理試食</p> 

<宮子屋>

「宮子屋」とは、「寺子屋」をもじったもので、神社＝宮を、地域に関する学びの場にする、というコンセプトを掲げ、2015 年に文化庁からの受託事業としてスタートしたものである。現在は藤井寺市役所から協議会への補助金と、一部は参加費で行われており、2019 年度は 4 回、道明寺天満宮で実施された。内容については、道明寺天満宮の南坊城光興宮司からの講義・講話に続き、家族で楽しめる様々なワークショップを、天満宮の結婚式場「天寿殿」にて実施するもので、毎年、回を重ねるごとにリピーターも増えるなど人気が高まっており、最近では 30 名～40 名の定員がすぐに予約で満席になっている状況である。

<p>【写真 11】道明寺天満宮</p> 	<p>【写真 12】埴輪について学芸員から説明</p> 
<p>【写真 13】埴輪づくり体験</p> 	<p>【写真 14】完成した埴輪と本学学生</p> 

本学学生については、毎回 2～3 名がボランティアとして活動し、毎回登場する「まなりくん」のアテンド、会場の設営や撤収、ワークショップの準備や、子供達のお世話などで活動するとともに、当日空席があればワークショップにも参加している。

2019 年度実施した日程とテーマについては以下の通りである。





- 2019.7.17 第 1 回 土師氏のお話とはにわ作り体験
- 2019.10.20 第 2 回 嘯（うそ）のお話と暮らしの中の香りづくり
- 2019.12.18 第 3 回 初詣と正式参拝方法、しめ縄づくり
- 2020.2.15 第 4 回 管公・梅の話と梅酒・シロップづくり

＜まなりくん活動＞

藤井寺市の公式キャラクター（ゆるキャラ）である「まなりくん」は、2005 年に公募でキャラクターが選定され、2009 年には着ぐるみを作成、以後、藤井寺の公式ゆるキャラとして、藤井寺の PR 活動を各地で行なっている。「まなりくん」とは、奈良時代に阿倍仲麻呂らと唐へ渡り、皇帝に重用され、36 歳の若さで現地で亡くなった、藤井寺市出身と言われる遣唐留学生「井真成いのまなり」のスピリットが現代に蘇ったものとしてキャラクター化したものである。


まなリンク協議会では、まなりくんの応援団事務局として、市役所と連携しながら、「まなりくん」の市内外へ出張活動、テレビなどへの出演や、各種 SNS などを通じた情報発信、活動メンバーの割り振りや募集に取り組んでいる。

本学生の活動について、今年度は、学生 2 人（男子 1 名、女子 1 名）が、滋賀県彦根市で開催された「全国ご当地ゆるキャラ博 in 彦根 2019」に、協議会メンバースタッフとして 8 月 1 泊 2 日で派遣され、藤井寺市役所職員とともに、出演ステージのプロデュースや、藤井寺市ブースの運営を行なった。

【写真 15】各地での PR 活動	【写真 16】商店街グリーティング
	
【写真 17】彦根ゆるキャラ博 2019	【写真 18】ゆるキャラ博藤井寺ブース
	

③ イオン藤井寺ショッピングセンター・デジタルサイネージとホームページ

2014年に一旦閉店となり、リニューアルを進めていた、藤井寺駅北側のイオン藤井寺ショッピングセンターが、2019年9月にリニューアルオープンした。地域で長年カムバックが期待されているリニューアルオープンであったこともあり、また地域企業として本学との連携を図りたいとの思いから、工事中の開店準備段階より、運営会社であるイオンモール株式会社 イオン藤井寺SC開設準備室とコンタクトを行い、協力関係を打診したところ、快諾とともに様々な提案をいただいた。まず、皮切りに、開店前のカウントダウンホームページや、開店時の店頭でのデジタルサイネージに、本学学生・教職員が応援メッセージを出すことになり、入試広報課の協力の下、撮影を行なった。

【写真 19】開店カウントダウン HP	【写真 20】デジタルサイネージ画面
	
【写真 21】本学でのイオン GM 講義	【写真 22】店舗訪問とヒアリング
	

また、ショッピングセンター内でのアルバイト募集説明会の開催に協力し、さらに11月1日には、総支配人と若手職員を本学「実学マネジメント論」の講義に招聘し話を伺った。さらに、これをきっかけに、学生が売り場を訪問し、店舗運営や集客についてヒアリングを行うなど、新しい学びのきっかけにもなっている。さらに、社会起業家を目指す本学学生のシニアマーケット「しゅみうる」の、第2回のイオン南側・スターバックス前での3月の共催について無償で協力を頂き開催が決定した。（開催については、コロナにより延期となった。）

④ こふん列車出発式・百貨店イベント（近畿日本鉄道・近鉄百貨店）

2019年7月6日、アゼルバイジャン共和国・バクーで開催されたユネスコの世界遺産委員会で、百舌・古市古墳群の世界文化遺産への正式登録が決定した。近畿日本鉄道では、エリア・キャンペーン「こふんまち 羽曳野・藤井寺」と題し、両都市のオススメスポットやモデルスポットの提案、グルメ情報や観光情報のインターネットや印刷媒体での提供、様々なイベントを11月末まで実施することになった。その目玉として、埴輪型つり革や、ラッピングで内外装

を改装した特別列車「こふん列車」を近鉄南大阪線で運行することになり、1号車の出発式が近鉄阿部野橋駅で行われた。近鉄から藤井寺市役所経由で要請があり、本学学生が第1号列車に市長らとともに搭乗し、まなりくんのアテンドをするとともに、近鉄百貨店阿倍野本店の催し会場で行われた、物産フェア「こふんまちイベント 羽曳野・藤井寺」で、市役所・商工会が出展した地元製品の紹介・販売ブースの運営や、まなりくんのステージをボランティアとしてお手伝いした。

<p>【写真 23】こふん列車出発式</p> 	<p>【写真 24】市長、副市長と学生</p> 
<p>【写真 25】こふん列車車内</p> 	<p>【写真 26】市役所スタッフと百貨店での PR</p> 

⑤ 世界遺産登録記念「まほら藤井寺」

百舌鳥・古市古墳群の世界遺産への登録を記念して、9月16日に藤井寺市役所により、津堂城山古墳でアート・マルシェ・カルチャーのイベント「まほら藤井寺」が開催された。このイベントは古墳への集客と、地域の産品や店舗のPRを目的に毎年開催しており、今回は特に世界遺産登録記念の冠を付加するとともに、登録無形文化財である「山本能楽堂」の能舞台とライトアップを市民参加型で行うことで、グルメや物販に加え、歴史とカルチャーの街としての藤井寺をPRし、訪れてもらうことを目的として開催したものである。津堂城山古墳は、数少ない「登れる古墳」として、市民の散歩や憩いの場として親しまれており、隣接する資料館には発見され、埋め戻された石棺のレプリカや、藤井寺のシンボルである「水鳥埴輪」も展示されている。「まほら」とは、古いやまと言葉で「すばらしい場所」を意味するという。

本学からは、過去最多となる20名の学生と3名の教員がボランティアとして参加、早朝からの会場設営やイベント準備、イベント開始からは会場案内、安全確保、駐車誘導、弁当手配、販売ブース支援、ワークショップ指導補助、まなりくんのアテンド、救護スタッフ、本部受付、清掃と後片付け、撤収など、イベント終了の夜まで大阪芸大チームとも力をあわせ、様々な業務を1日体験した。

【写真 27】設営準備	【写真 28】ステージ前で役割分担確認
	
【写真 29】市長と参加学生	【写真 30】後片付けと清掃も重要な仕事
	

⑥ デラハロ ＝藤井寺ハロウィン（藤井寺駅周辺まちづくり協議会）

藤井寺ハロウィン、通称「デラハロ」は、2012 年より、商店街の活性化、集客を狙いとして「藤井寺駅周辺まちづくり協議会」を主宰として開催され、ハロウィンブームとともに年々人気が高まり、「デラ行っとく！」を合言葉に、地元の人に愛される参加型イベントとして定着している。駅南側の「ブクンダ公園」のステージでの子供達のグループによるダンス発表や、地元のバンド演奏、招聘された吉本芸人のコントなどが行われ、地元飲食店の飲食ブースや、夜店などが並び、遅くまで賑わっている。そのメインイベントは、ハロウィンコスチューム、仮装した子供たちのパレードで、今年は天候にも恵まれ、秋に新規オープンしたイオン藤井寺からのコースなど 3 コースで 3 回実施、数百名の子供たちがパレードを行った。

本学の学生についてはパレードの安全確保ボランティアに加え、1 ブースを街協から無償提供いただき、3 年天野ゼミメンバーを中心に、地域連携インターンシップ受講学生も加え、お子様向け夜店、ゲーム屋台の企画運営を行なった。ハロウィンらしさということで、1 ヶ月の期間をかけて完成させたお化けのハリボテはじめ、道具の準備から、景品の仕入れ、ゲームの当たりの比率、損益分岐点などの予測や売上のシミュレーションを行い、ビジネスの演習としての位置づけと教育効果も持たせることも狙いとした。ハロウィンイベントであることから、様々なコスチュームで、いつもと違う雰囲気を楽しみながら参加ができることができることが特徴になっている。

【写真 31】パレードの安全確保と誘導	【写真 32】教員も学生もコスプレで活動
【写真 33】お子様向けのゲーム屋台企画	【写真 34】オバケをハリボテで作成

⑦ 峰塚公園 まちまるしえ／しゅみうる第1回

【写真 35】3種類のゲームを準備	【写真 36】女子学生のフェイスペイント
【写真 37】峰塚公園まちまるしえ会場	【写真 38】まなりくんとつぶたんを演出

11月1日に、大学近くの羽曳野市峰塚公園（峯が塚古墳）にて、羽曳野市が世界遺産登録を記念して開催したイベント「古墳 de るる」と同時に民間 NPO が開催した、マルシェイベント「まちまるしえ」において、運営ボランティア活動を行なった。羽曳野エリアを中心に活躍する作家系個人店舗を中心に約 50 店舗で開催されており、今年で2回目の参加になる。ゼミ行事としては、2 ブースを主催者から提供いただき、3 年女子学生は「フェイスペイント」、3 年男子学生は、ミニカーを使った「チキンレース」、4 年ゼミは「ストラックアウト」、地域連携プロジェクトチームは、「埴輪でストライク」のお子様向けゲームを実施し、大人向けの出店が多いマルシェの中で、小さな子供たちに大好評であった。埴輪に投げるコルクは、地元のワイナリーである河内ワインからのご提供を受けた。地域連携チームは、羽曳野市公式キャラクターである「つぶたん」と、藤井寺市「まなりくん」のプロデュースも行なった。

また、社会起業家を目指すゼミ生による、地域のシニアが趣味や特技を披露し、販売するビジネスプラン「しゅみうる」を1ブース契約し、初実施した。これは、2018 年度の関西ベンチャー学会会長賞を受賞した起業プランである。「シニア層には趣味を活かしながら生き甲斐と収入を生み出し、スポンサー企業には新たなマーケティングの場を提供、地域にはさまざまな世代間の交流の場をつくり活性化を図る」という「三方よし」の理念がソーシャルアントレプレナーとして高い評価を受けたもので、参加したお年寄りにも、作ってものを買っていただけたと大変好評で、またテレビの取材も受けるなど、実現に向けてのフィージビリティ・スタディとして、事業化への第一歩を踏み出した。

【写真 39】社会起業家を目指す藤田くん	【写真 40】出店いただいたシニアの方々
	
【写真 41】シニアの手作り商品	【写真 42】しゅみうるブースの様子
	

⑧ 柏原 大正通り商店街 ポケット商店街 ゲストハウス「えんがわ」

柏原市は、藤井寺市、羽曳野市から、大和川を隔てた対岸にある衛星都市である。かつては繊維産業や染色業などの軽工業で栄えたが、現在は工場も撤退し、名産品のぶどうやワインを生産する農村地帯と、比較的住宅の密集した住宅エリアとなっている。JR 関西本線と、近鉄大阪線、近鉄道明寺線の結節する柏原駅が交通の中心となっており、そこから、国道 25 号線に向かう一方通行の通りが大正通り商店街である。こちらも以前は映画館やデパートがあるなど、地域の核として栄えた商店街であったが、ほとんどの店舗が閉店し、現在は医院等も含めて約 10 店舗が細々と営業しているにすぎない。その活性化のため、商店街の一角である、長屋、古民家の密集したエリアをリノベーションし、若者や女性向けの高感度で魅力的な店舗を誘致し、地場産品であるぶどうや手ぬぐいの販売など、様々なイベントも行うことで、商店街の中の「インナー商店街」として再生する動きが、2017 年頃から地元のリーダーや若者の手で進められている。

その中核となっている施設が、「ゲストハウス Bed and Bicycle」である。外国人やサイクリストを対象とした簡易宿泊所であり、若手オーナーの中村祐哉氏を中心として、地域貢献に関心のある住民や商店主、公務員や主婦、外国人などが集まり、毎月第一水曜日夜に、まちづくり、環境など様々なテーマについて議論を行う勉強会を開催している。2019 年 10 月から、地域連携やまちづくりに関心のある学生を募り、経営学科生や人間福祉学科の大学院生も参加している。

<p>【写真 43】改修前の大正通古民家</p>	<p>【写真 44】改修後の柏原大正通ポケット</p>
	
<p>【写真 45】ゲストハウスでの会議</p>	<p>【写真 46】参加した学生と地域の方々</p>
	

⑨ 藤井寺市長とのタウン・ミーティング

2月8日、岡田一樹 藤井寺市長とのタウン・ミーティングに、学生4名、教員2名で市長主催のタウン・ミーティングに参加した。タウン・ミーティングとは、市政や地域に関することを、市長や職員と市民が直接意見交換する、市民参加型の行政の仕組みである。岡田市長は藤井寺駅周辺まちづくり協議会の会長として活動後、2019年春に市長に当選し、ちょうど1年となり、様々な地域活動に取り組んできた本学学生とも馴染みの深い存在である。市政についての説明を受けた後、1年生から4年生までの参加メンバーは、チームにわかれ、観光資源を活かした活気づくり、子育て支援、高齢化対策、安全と安心なまちづくりなどについて、一般参加市民と約100分話し合い、本学の学生が中心になり、市長、副市長、教育長始め、市幹部にプレゼンテーションを行なった。公務員志望の学生からは、自治体の抱える課題や、市役所の仕事の内容について理解を深めることができたという好評であった。

<p>【写真 47】市長からの市政報告</p> 	<p>【写真 48】グループディスカッション</p> 
<p>【写真 49】学生から市幹部への提案</p> 	<p>【写真 50】市長と参加学生、教職員</p> 

⑩ FRAP（藤井寺ラッピング・プロモーション）「ハレマチビヨリ」、地域コラボ商品企画販売



<p>【写真 51】藤井寺市長訪問と説明</p> 	<p>【写真 52】市長宅での会議への参加</p> 
--	--

藤井寺市では、古くからの商店や、長い歴史をもった酒、お茶、和菓子、料亭などの老舗と、新しい感性を持った新しい個人店がお互いに協力しながら新しい魅力を創造し、発信していくことで、魅力的なまちづくりをさらに進めていく地方創生事業として、**FRAP**（エフラップ）**Fujiidera Wrapping Promotion** が 2017 年からスタートした。中小企業庁からの藤井寺市への予算を得て、統一コンセプトでのデザインを用いたプロモーションや、異業種コラボレーションによる商品開発や、合同 PR イベントなどを、まちづくり・都市計画コンサルタントであるランドブレイン株式会社が事務局となり受託を受け、デザイナー、クリエイターをまとめながら進めている。本学からは筆者（天野）が発足時よりプロジェクトのアドバイザーに就任し、地域ブランドや地域連携に関心を学生とともに、イベントを中心とした活動への協力に取り組んでいる。そのメインイベントが、3 月に古墳で開催される「ハレマチビヨリ」である。


2018 年、2019 年の「ハレマチビヨリ」では、本学のボランティアサークル「ポコ・ア・ポコ」が中心になって実施した子供向け紙飛行機大会が好評であった。本年度も 3 月実施で準備を進めてきたが、コロナウイルスにより残念ながらイベントが直前で中止になった。

なお、**FRAP** については本年度で行政からの助成金の終了となるため、次年度以降、法人化など新しい枠組みでの継続と、その財源の確保について、参加店舗で検討を開始したところである。

この他、世界遺産登録を記念し、**FRAP** と地元有力企業である「大阪前田製菓」のオリジナル・コラボ商品として、長年愛されている名産品のお菓子「乳ボーロ」と「チョコチョコボ」の世界遺産登録記念パッケージが作成され、本学丸善キャンパスショップにて、大学祭、オープンキャンパスへの来訪者をターゲットに、地域連携商品の大学お土産として限定販売を行った。

【写真 53】FRAP コラボ商品乳ボーロ	【写真 54】FRAP デジタルサイネージ
	

⑪ その他

【写真 55】天神祭での夜店ボランティア	【写真 56】辛國神社星まつりボランティア
	

道明寺天満宮天神まつり（7月25日）での、道明寺天神通商店街のお子様向け夜店イベントにて3名が、および辛國神社燈火会（星まつり）（2月3日）でのろうそくや提灯の設営、運営、撤収について10名がそれぞれボランティア活動を行った。

3. ブログ等を通じた授業での情報発信（川本）

（1）ポータルサイト「オオサカジン」の活用

学生が地域の歴史スポットや観光スポット、イベント、店舗等を取材し、紹介して発信していくことで、地域について深く学ぶことが、「地域連携インターンシップⅢ、Ⅳ」、および「地域ブランド研究」の授業の主要テーマである。ブログ作成をメインに Instagram や twitter(#fujideliike)も通じて広く一般に紹介するというもので、様々な現場に自ら赴き体験的に地域を知り、整理し、発信するというプロセスを通じた、現代的な新しい形の PBL を目指している。

このため、地域課題解決奨励金を活用し、2017年度秋より、2019年2月まで、本講義のチューデント・アシスタント⁴でもあった本学卒業生の川本藍が勤務する、WEBソリューションやWEBマーケティングを事業内容とする「ジェイ・ライン株式会社（代表取締役：野上尚繁、本社大阪市）、資本金1000万円」が運営する地域ポータルサイト「オオサカジン」との契約と提供により、地域ブログ「ふじい de Lovers のデラ充日記（<https://ibu.osakazine.net/>）」の作成に取り組んできた。

その詳細内容、過去の記録や成果、具体的な手法については、「四天王寺大学教育研究実践論集第7号 2019.3『地域連携プロジェクトによる実践的教育活動とブログ作成について 地域課題解決奨励金事業 報告』」を参照されたい。

なお、「オオサカジン」（<http://osakazine.net>）とは、2006年に設置され、会員約10000人、ブログ数8500、月間150万PV、訪問者数約15万人を中心とする、地域密着型ブログサービスで、ブログを書く人も、読む人も、運営担当者も地元関係者であり、単なる情報提供に留まらず、人と人との繋げる、といくことが特徴になっている。公式コンテンツとしては、セミナ

⁴ 授業内で、学生の作業を支援し、アドバイスを行う役割を大学から委嘱された学生。成績条件と選考により優秀学生が選ばれ、勤務時間にあわせて報酬が支払われる。

一、ワークショップ、サロン情報、お出かけ情報、グルメ情報や、人物紹介などである⁵。また、地域住民＝地域ブロガーが主役となって観光・ビジネス・衣食住の情報を発信する地域密着型ブログポータルサイトのネットワークである、「Areaers（エリアーズ）」にもつながっている。エリアーズは、ITによる地方創生、地域活性化を掲げ、国内44カ所、海外6エリア、月間2億PV、会員数25万人の地域密着型サイト・ブログの全国ネットワークとなっている⁶。

（２）「オオサカジン 街ブラ企画 藤井寺」への移管と新たな展開

本学学生専用ページ「ふじい de Lovers のデラ充日記」として有償プラットフォームで行なってきた地域ブログについて、2019年冬学期より、ジェイ・ライン株式会社からの提供により、「オオサカジン 街ブラ企画 藤井寺」への記事投稿方式へとリニューアルした。また、本学の「地域連携インターンシップ」「地域ブランド研究」の受講学生が2019年2月（18年度後期授業）まで投稿してきた、ブログコンテンツについても、一括して「オオサカジン 街ブラ企画 藤井寺」への移管を行なった。

その理由としては、2019年度前期の受講生が数名程度と少なく、その結果、投稿、更新頻度が少なくなったこと、授業専用の教育コンテンツとしての意味はあっても、本来の地域ブログ作成の趣旨である、「社会に広く、地域の情報や魅力を継続して発信していく」ことについて、貢献していくことが困難であると考えられたためである。

一方、ジェイ・ラインの運営管理する「街ブラ企画」には、谷町、東成、万博記念公園、都島・京橋、中之島・住吉・粉浜などの各地域のブログが同社のスタッフ並びに委嘱ライターの投稿により運営されており、2019年後期以降、同社の「街ブラ企画 藤井寺」ブログに、該当授業を履修する学生も「ライター」のメンバーとして授業期間内に投稿を行うという形となった。また、本学の学生が投稿しない授業期間以外については、同社の「オオサカジン」事業のサイト責任者でもある筆者（川本藍）を中心に取材や記事更新を随時続けることで、広く一般の供覧する地域情報サイト、コンテンツとしての価値を維持、発展させている。2019年度の学生によるブログ記事・取材先・場所を【図表2】に示す。

⁵ オオサカジンについて <https://www.j-line.co.jp/areapromotion/> 参照。

⁶ エリアーズについて <http://areaers.jp/> 参照。

【図表 2】2019 年度 学生によるブログ記事作成・取材・掲載記事

取材場所	エリア
ハレマチビヨリ 津堂城山古墳	藤井寺
道明寺歴史祭り	道明寺
カフェ ファブリコ	羽曳野
そば 山ふじ	藤井寺
玄米食堂 すみれ	道明寺
小山善光寺	藤井寺
Momovege (ももベジ)	柏原
黒川珈琲	藤井寺
まちまるしえ	羽曳野
和菓子 朝日堂琮源	藤井寺
デラハロ (ハロウィン)	藤井寺
宮子屋	道明寺
藤井寺球場の歴史	藤井寺
ステーキハウス Big Joe	羽曳野
パティスリー フラワー	羽曳野
純喫茶 藤	藤井寺
お好み焼き 来楽蔵 (くらくら)	藤井寺

【写真 57】「オオサカジン」トップページ



【写真 58】「街ブラ企画 藤井寺」のページ



【写真 59】学生の投稿例（まちまるしえ）	【写真 60】学生の投稿例（店舗紹介）
<p>2019年12月25日16:32 まちマルシェにまなりくん参戦！！IBUは塩輪の出し物を 出店！</p> <p>2019年12月25日16:32 ■ カテゴリー 食べる 体験 買う 楽しむ イベント</p> <hr/> <p>【四天王寺大学も参戦！】</p> <p>昨年に続き、今年も峰塚公園で行われる、まちマルシェが行われました。</p> <p>まちマルシェとは、地元の方が自分の趣味や出したいものを出品しお客さん のお金を払って、知ってもらう、楽しんでもらうというイベントです。</p> <p>IBU 四天王寺大学からも5店舗出店させていただきました！</p> <p>学生が、1から企画、商品の用意、費用などを準備し、中には塩輪の「IBU」ポスター を作って、それに写真インさんからいただいたコルクを貼るストラップやフ ェイススベインなどの企画を行い、大好評でした。</p>  <p>四天王寺大学の藤田さんの「しゅみう」はシニア層の方に味を収入、生 きがいしてもらおう企画でこちらも大好評で無事終了致しました。</p> 	<p>隠れ家的なお好み焼き屋さん「来楽庵（くらくら）」へ行 ってきました！</p> <p>2020年03月28日12:00 ■ カテゴリー 食べる 飲む</p> <hr/> <p>こんにちは！へー！</p> <p>今回、僕は御所町にあるお好み焼き屋さん「来楽庵（くらくら）」に行きまし た！ 大阪といえばお好み焼きということで、このお店を選びました！！</p>  <p>お店の外観はこんな感じ！</p> <p>とても居心地の良いお店です。 オシャレ～ お好み焼き屋さんのイメージが覆りますね！ 最寄り駅から徒歩2分という、駅近でわかりやすいというのも魅力的だと思いま した。</p>  <p>写真で、人気ナンバーワンは「くらくら焼き」！</p>

なお、2019 年度前期（夏学期）については「地域連携インターンシップⅢ（共通教育科目）」として天野が担当、後期（冬学期）については「地域ブランド研究（専門教育科目）」として、奈良県での地域コーディネーター・ライターとしての経験と実績を有する西久保智美氏を非常勤講師に委嘱し、それぞれで川本がブログ技術担当外部講師として講義を実施した。2020 年度については、コロナ問題で取材等の困難が予想されるが、「地域連携インターンシップⅢ」を日本学科に移管し、地域ブランド研究については昨年度と同様に川本が外部講師として実施を計画画中である。

4. むすび（天野）

2019 年度の地域連携に関する一連の講義の具体的な内容と特徴的な活動、地域貢献活動や地域行事、まちづくりの現場への参画と意義を 2 章で、情報の収集とブログ媒体を通じての発信について 3 章で紹介してきた。

その実施の狙いとしては、卒業後の地域への定着を推進するとともに、住民の地域との関係が希薄化、住民の孤立、大資本による寡占化、商店街の衰退、都市部への集中、そして少子高齢化が進む中で、地域の可能性を発見し、新たな魅力を創出し、地域に多様なイノベーションを起こしていく、若い将来のリーダーを育てたいという思いがある。

学生がこれらの講義を受講した成果として得られるものとして、①まちづくり、まちおこしの重要性の認識と、活動の動機付け、②地域おこしプロジェクトの運営ノウハウや現場力、情

報発信能力の取得、③ボランティア精神とリーダーシップの涵養があげられる⁷。実際に経験した6名の学生の声、成長の自己分析については、四天王寺大学教育研究実践論集第8号『地域連携プロジェクトによる、まちづくり活動参加実践と教育における成果』に掲載しているので参照されたい。

地域連携COCOROEプロジェクトへの参加というPBLを通じ、本学で地域連携を体験的に学び、地域を知り、地域を愛する心を育んだ若者たちの、将来の独創的なあるいは地に足のついた活躍を耳にする、目にすることに大いに期待したい。また、教職員についても、大学が地域の発展のためにどう貢献できるか、自分が何をできるかを日々真剣に考え、考えたことをすぐに実行に移すことで、本学が地域に密着し、愛され、信頼される大学へと発展していくことを期待している。

謝辞

最後に、貴重なボランティア活動の機会を提供いただき、様々な学生にご支援、励まし、お叱りを頂いた、藤井寺市長、羽曳野市長はじめ、市役所のスタッフ、協議会リーダーの方々、協賛をいただいた企業、ジェイ・ライン株式会社、学生の取材を快く受け入れていただいた地域みなさまに、この場をもって心から御礼申し上げたい。

※写真については全て筆者の撮影による。媒体への掲載は許諾済み。

⁷ 『地域連携プロジェクトによる、まちづくり活動参加実践と教育における成果（地域課題解決奨励金事業 報告）』天野了一 四天王寺大学教育研究実践論集第8号 2019.9 を参照。